

<記者発表資料②>

令和2年2月18日 記者発表
2月21日 解 禁

総務部財政課

担当：課長 中尾 吉伸

内線：2450

令和2年度 当初予算(案)の概要

事業集



三木市 Miki City

目 次

【新】は新規事業、(拡)は拡充事業

テーマ	柱	項 目	担当課	ページ
未来へつなぐ人と暮らしづくり	①結婚・出産・子育てを支えるまち	1 【新】 産前産後サポート事業「みつきいたまびよサロン」を開設	健康増進課	3
		2 (拡) 一時預かり保育の実施日・定員を拡大	子育て支援課	4
		3 【新】 親子発達支援教室を開設	障害福祉課	5
		4 (拡) 子育てキャラバンの一部をデイサービスセンターで実施	子育て支援課	6
		5 【新】 子育て家庭へ食品を配達(子ども宅食・子どもの貧困対策)	子育て支援課	7
		6 (拡) 認定こども園等の副食費の補助を拡充	教育・保育課	8
	②豊かな学びで未来を拓くまち	7 【新】 学校再編に向けた準備	学校教育課	9
		8 【新】 統合に向けた学校施設等の整備	教育施設課、学校教育課	10
		9 【新】 GIGAスクール構想の実現～1人1台タブレット～ 【3月補正】	教育施設課、学校教育課	11～12
		10 【新】 アートティーン公募展を開催	文化・スポーツ課	13
		11 【新】 オリンピック・パラリンピック関連イベントを開催	文化・スポーツ課、障害福祉課	14
	③安心して暮らせるまち	12 【新】 医療機関との連携による医療的ケア児の支援体制の強化	障害福祉課	15
		13 【新】 暮らしに必要な情報を手話動画で配信	障害福祉課	16
		14 【新】 次世代型スマート窓口の実施に向けた共同研究	法務情報課	17
		15 (拡) マイナンバーカード取得と利活用の促進	企画政策課、市民課	18
安全・安心なまちづくり	①暮らしに必要な環境を整えるまち	16 【新】 合併処理浄化槽の設置に補助金を交付	下水道課	19
		17 (拡) 空家等の適正な管理に向けた取組の強化	生活環境課 ほか	20
		18 (拡) 空き家バンク専用のホームページを開設	縁結び課	21
		19 【新】 公民連携による青山7丁目団地再耕プロジェクト	企画政策課	22
		20 【新】 神戸電鉄粟生線の昼間時間帯の増便	交通政策課	23
		21 (拡) 神戸電鉄粟生線三木駅の再生	交通政策課	24

目 次

【新】は新規事業、(拡)は拡充事業

テーマ	柱	項 目	担当課	ページ
安全・安心な まちづくり	②持続可能なまち	22 【新】多文化共生社会の推進	市民協働課	25
		23 【新】三木山総合公園の野球場に防球ネット等を整備	都市政策課	26
	③防災のまち	24 【新】防災情報マップを更新	危機管理課	27
		25 【新】防災緊急通知システムを導入	危機管理課	28
		26 【新】災害時における避難所電源供給用の電気自動車を配備	危機管理課	29
		27 【新】高機能消防指令システムの更新整備	消防本部	30
		28 【新】密集市街地の改善に向けた取組	都市政策課	31
いきいき輝く 魅力づくり	①地域資源で人を 呼び込むまち	29 【新】全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会を誘致	観光振興課	32
		30 【新】自転車通行空間の整備	道路河川課	33
		31 【新】旧市街地の地域資源を活かしたまちづくりを推進	都市政策課	34
	②地域の魅力を 伝えるまち	32 (継) 市史編さんを推進	市史編さん室	35
	③地域の魅力を 高めるまち	33 【新】SAKE selection2020への参画	農業振興課	36
		34 【新】ひょうご情報公園都市の整備を促進	プロジェクト推進課	37
35 【新】イノシシなどによる農業被害対策の推進		農業振興課	38	
その他		36 【新】若者ミーティングを開催	企画政策課	39
		37 【新】AIやRPAを活用した業務改善	法務情報課、財政課	40

妊産婦や家族が抱える妊娠・出産や子育ての悩みについて、助産師や保健師による相談支援や、妊産婦同士の交流の場づくりを行うことで、家庭や地域での妊産婦等の孤立感の解消を図ります。

みっきいたまびよサロンとは

妊娠、出産、子育て中の母親と家族、赤ちゃんのための相談および交流の場。
助産師や保健師が産前・産後のサポートを毎月開催し、個別相談と妊産婦同士の仲間づくりを行います。

産前サポート

個別相談、沐浴実習、妊産婦や乳幼児期の栄養・口腔ケア・心身の講話、リラクゼーション体操

妊娠中に、沐浴や着替えを体験して、出産後の生活をイメージ！



産後サポート

個別相談、妊産婦同士の交流、乳児の身体計測

赤ちゃんの世話はこれでいいのかな？



助産師や保健師に相談

心配が減ると、安心して子育てできそう！



項目

一時預かり保育の実施日・定員を拡大(健康福祉部 子育て支援課)

事業費 : 242万円

突発的な事情等により家庭での保育が困難となる場合や、育児に疲れて少しリフレッシュしたい場合に利用できる「一時預かり保育」の実施日と定員数を拡大し、日々子育てに追われる保護者へのサポートをより充実します。

・子育ては楽しいけど、
たまには息抜きしたいなあ
・病院や美容院に行きたい
けど子連れはちょっと…



理由に関わらず利用できます



一時預かり保育

場 所: 児童センター

対 象: 6ヶ月～就学前の乳幼児

託児料: 1,000円/回

専任の保育士が
責任を持って預かります



実施日と定員数を拡大

これまでよりも
利用しやすくな
ります

	現 行	令和2年4月～
	週2日	週 3日
実施日	火曜 13時～16時 金曜 9時～12時	火曜 13時～16時 木曜 9時～12時 金曜 9時～12時
定 員	6名	8名

乳幼児健診等において支援が必要と思われる子どもとその保護者を対象に、親子発達支援教室（親子で参加する保育教室）を実施します。教室での親子同士の遊びを専門家がみることで、子どもに療育が必要かどうか、子どもへの接し方に関する保護者へのアドバイスをを行い、家庭での療育の支援につなげていきます。

乳児健診、1歳6か月児健診などで発達に支援が必要と思われる児童と保護者

親子発達支援教室

- ・家庭での療育に重点をおいた親子参加型の保育教室を開催
- ・子どもの特性に合わせた接し方・伝え方を専門家から保護者へアドバイス
- ・発達の状況に応じた療育・保育等施設へのつなぎ

たとえば・・・

教室での過ごし方を専門家がみると・・・



「お母さんが何度も言い聞かせているけど、子どもにはうまく伝わっていないみたい」



「絵や写真の理解は早いみたい」

子どもへの接し方について
専門家からアドバイス



「お子さんの場合は、言葉で伝えるよりも、視覚的に伝える方が理解しやすいと思います」

家庭での実践



「少し理解が早くなってきたなあ」

子どもの発達状況や特性にあわせた機関へつなぎます

こども発達支援センターにじいろ（児童発達支援）
児童発達支援事業所

情報共有

認定こども園
保育所、幼稚園、学校

項目

子育てキャラバンの一部をデイサービスセンターで実施
(健康福祉部 子育て支援課)

事業費 : 0万円

現在実施している子育てキャラバンをデイサービスセンターでも行うことで、核家族化の進行等で減少している子どもと高齢者の交流の機会をつくり、多世代の交流により地域共生社会をさらに推進します。

実施場所: デイサービスセンターひまわり(緑が丘町西4)

4月14日
スタート

開設日: 毎月第2火曜日(8月を除く) 10時~11時30分

対象: 2歳児~就園前の幼児と保護者

内容: 親子と一緒に音楽あそびや季節に合わせた行事を楽しむ。
親子だけでなく、デイサービスを利用する高齢者との交流を行う。

多世代交流のメリット

子ども

・思いやりの心が
芽生える



高齢者

・元気をもらう
・笑顔が増える

項目

子育て家庭へ食品を配達(子ども宅食・子どもの貧困対策)
(健康福祉部 子育て支援課)

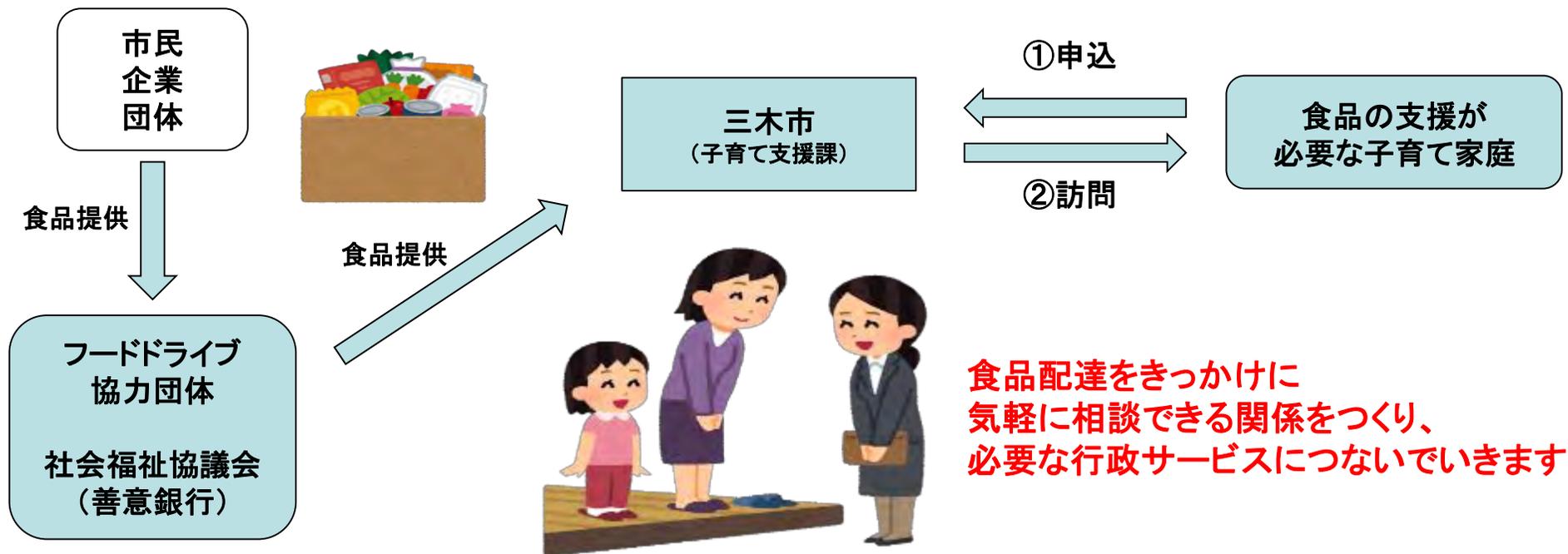
事業費 : 0万円

地域や企業等から寄せられた食品を、生活支援の必要な子育て家庭に届けます。食品を届けることで、親子と直接顔を合わせて、生活の困りごとや子育て相談を行い、必要な行政サービスの案内や、地域との交流の橋渡しを行います。

- 対象家庭** 生活支援の必要な子育て家庭(主に食品の支援が必要な家庭)
市が把握する家庭のほか、希望がある場合は訪問・面談を行ったうえで対応
- 配布食品** フードドライブ※された食品のうち、賞味期限まで1か月以上ある常温保存可能な食品
(例：米、缶詰、レトルト食品、乾物、調味料、お菓子など)
- 配布手段** 市職員が対象家庭を訪問して手渡し

※フードドライブとは

家庭や店舗で余っている食べきれない食品を持ち寄り、必要としている方や福祉団体に提供する活動



項目

認定こども園等の副食費の補助を拡充

(教育振興部 教育・保育課)

事業費 : 6, 228万円

民間の認定こども園・認可外保育施設等を利用する3歳児～5歳児の保護者に対し、副食費(おかず代)の補助を継続して行います。さらに、1号・新1号認定児童と比べると、施設を利用する回数が多い2号・新2号認定児童に対しては、副食費が高くなっている実態に合わせて、月額4,200円から4,500円に拡充します。(54,000円/年)

2号、新2号児童

R1年度まで

R2年度から

保育料
無償化

保育料
無償化

副食費補助
4,200円/月



副食費補助
4,500円/月



主食費
(保護者負担)



主食費
(保護者負担)

副食費補助額

1号認定児童	727万円
2号認定児童	5,285万円
新1号・新2号認定児童	216万円
合計	6,228万円

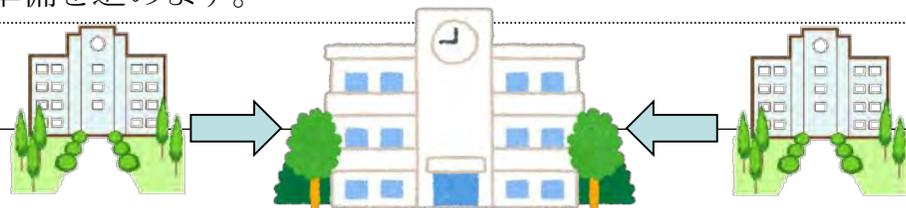
国制度では、保護者が負担すべき副食費を三木市は補助しています。



- ※ 1号認定児童(教育認定)
幼稚園等に通う児童
- ※ 2号認定児童(保育認定)
保育所等に通う児童
- ※ 新1号、新2号児童
私立幼稚園等や、
認可外保育施設に通う児童

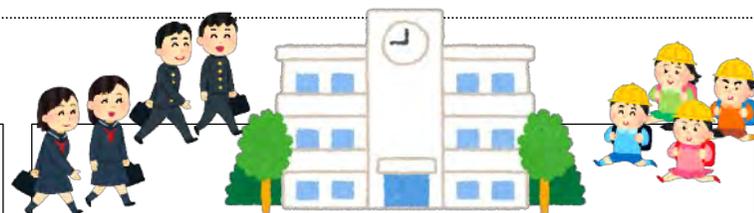
※ただし、国の幼児教育・保育の無償化における副食費免除対象者は補助対象外。

令和元年10月3日に策定した「学校再編に関する実施方針」に基づき、小規模となった学校の統合と小中一貫教育を行う学校への再編に向けた研究を進めています。統合校では児童生徒の事前交流活動を行うとともに、備品の整備、物品の移動など、令和3年4月の統合に向けて円滑な準備を進めます。さらに、小中一貫教育の導入に向けて、先進校視察や教職員の研修を実施し、三木市の現状に応じた小中一貫教育のカリキュラムの作成と施設一体型小中一貫校の設置に向けた準備を進めます。



学校の円滑な統合に向けた準備

- ・統合校の児童生徒の事前交流活動 【80万円】
- ・統合する学校の教職員の負担軽減のための学校事務補助員の配置 【768万円】
- ・統合する学校の設備、備品の移設 【670万円】
- ・開校する学校の整備(校旗、校章、校名プレート、通学バスのバス停標識等) 【439万円】
- ・校区の変更にかかる住民基本台帳システム改修 【80万円】



小中一貫教育の導入に向けた研究

- ・学識者等による、小中一貫教育に関する教職員の研修 【14万円】
- ・教育委員会、教職員による小中一貫教育の調査及び研究 【103万円】
- ・小中連携交流活動 【24万円】



項目

統合に向けた学校施設等の整備

(教育総務部 教育施設課、教育振興部 学校教育課)

事業費 : 3,420万円

令和3年度に中吉川小学校、上吉川小学校及びみなぎ台小学校の統合並びに志染中学校と緑が丘中学校の統合に伴い、統合校として施設を使用するみなぎ台小学校及び緑が丘中学校を整備し、円滑に学校運営ができるように準備します。

みなぎ台小学校

- ・統合に伴い学級数が増え、異学年が隣接する教室となることが見込まれるため、必要となる間仕切り及び空調の整備



【2,050万円】

- ・通学路の安全対策等

【350万円】



緑が丘中学校

- ・自転車置き場や、スクールバス回転地などの整備

【1,020万円】



良好な教育環境の整備を行います



項目

GIGAスクール構想の実現 ～1人1台タブレット～
(教育総務部 教育施設課、教育振興部 学校教育課)

【3月補正】
事業費 : 1億8,340万円

国が進める初等中等教育において、Society5.0という新たな時代を担う人材の育成や、特別な支援を必要とするなどの多様な子どもたちを誰ひとり取り残すことのない一人一人に応じた個別最適化学習にふさわしい環境を速やかに整備するため、学校における高速大容量のネットワーク環境(校内LAN)の整備を推進するとともに、義務教育段階において、令和5年度までに、全学年の児童生徒一人一人がそれぞれ端末を持ち、十分に活用できる環境の実現をめざします。

めざすべき次世代の学校・教育現場の姿

- ・ 学びにおける時間・距離などの制約を取り払う
- ・ 個別に最適で効果的な学びや支援
- ・ プロジェクト型学習を通じて創造性を育む
- ・ 教師の経験とビッグデータを活用したきめ細やかな指導
- ・ 校務の効率化

整備時期	整備内容	事業費
R2年3月～	校内ネットワーク環境の整備	1億8,340万円
R3年～R5年	タブレットの整備 (4,660台)	4億1,940万円
合計		6億280万円

※タブレットの整備費用は、国県の状況等により変動します。

市内すべての 小学校、中学校、特別支援学校



項目

1人1台タブレットを活用した「未来を拓く」児童生徒の育成 (教育総務部 教育施設課、教育振興部 学校教育課)

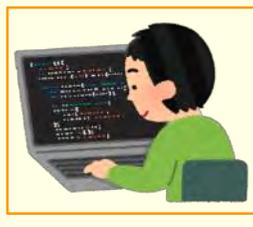
国が進めるGIGAスクール構想を活用して、小学校、中学校、特別支援学校の児童生徒に1人1台のタブレット型パソコンを整備し、新たな学習環境による子どもの育成を進めます。

全ての学習活動でタブレットパソコンが活用できる環境

疑問を見出し、多くの情報の中から必要とされる情報を見つけ、正しく活用する(辞書等として利用)



身近な学びの中で自動販売機やロボット掃除機などの仕組みを知るなどプログラミング的思考を養う



友人や先生と意見や考えを提案し合い、多様な価値感があることを知り、新たな感性や好奇心・探究心を深める



- 必要な情報を見つけ、正しく活用する
- 科学的に思考・吟味し活用する
- 価値を見つけ生み出す感性、好奇心・探究力を深める

一人一人のニーズや課題に合わせた学習環境

子どもたち一人一人の学びの情報を把握し、それぞれに最適な学びを提供する



タブレット用のドリル等を使って、自分に合った課題を、自分に合った時間で学習し、基礎・基本の力を身につける



特別な支援が必要な子どもたちにわかりやすい学び方を提供し、自立に向けた支援を行う



- 自らの課題を見つけて主体的に取り組む
- 自らの学び方を見つけ、基礎・基本を身につける
- 新しい学びのかたちを取り入れる

社会の変化に主体的に向き合い、未来を拓く力の育成

- ・学びを人生や社会に生かそうとする**学びに向かう力・人間性**等を養う
- ・生きる力としての**知識・技能**の習得
- ・未知の状況にも対応できる**思考力・判断力・表現力**等の育成

項目

アートティーン公募展を開催（教育総務部 文化・スポーツ課）

事業費：16万円

子どものころから、自分の表現と真剣に向き合い、取り組む経験は、かけがえのない一生の宝物となります。若い世代の育成と地域の芸術文化の振興を図り、自己表現の場を提供するために、アートティーン公募展を開催します。

第1回 アート・ティーン公募展

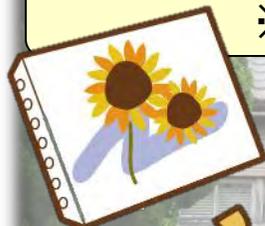
対象者：13歳から19歳までの方

作品受付：7月18日・19日

展示会期：7月25日から8月10日まで

展示会場：三木市立堀光美術館

部門：①絵画の部 ②木彫の部
※テーマは自由



若い世代の育成と
地域の芸術文化の振興をめざします

項目

オリンピック・パラリンピック関連イベントを開催
(教育総務部 文化・スポーツ課、健康福祉部 障害福祉課)

事業費 :595万円

2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、2019年から継続した合宿の受け入れなどにより、大会機運の醸成を図ります。また、パラリンピックについては、共生社会ホストタウンとして聖火の展示を行うとともに、パラリンピックに関するイベントを実施することにより、一人一人が互いの価値や輝きを認め合う共生社会を実現すべく、人と人や社会との新しいパートナーシップを考えるきっかけづくりを行います。



直前合宿受け入れ



パラリンピックにおける 聖火の展示・イベント等の実施



◆オリンピック

陸上競技(フランス)

合宿期間:7月中旬 ~ 8月上旬

◆パラリンピック

・陸上競技(フランス)

合宿期間:8月中旬 ~ 8月下旬

・テコンドー(ネパール)

合宿期間:8月中旬 ~ 8月下旬

本大会の出場日程に合わせ、各国の選手が三木市内で合宿を行います。この機会をとらえイベントなどを開催し、大会機運の醸成を図ります。



日程:8月13日 ~ 8月17日

- ①西脇市で行われる採火式に参加
- ↓
- ②市内障がい者施設に展示(2か所)
- ↓
- ③パラリンピック関連イベントの実施
- ↓
- ④兵庫県庁で行われる集火式に参加



人工呼吸器管理や吸引、経管栄養等の医療的ケアを必要とする重症心身障害児(医療的ケア児)に対応できる医療機関と連携し、看護と支援の質の向上を図ることで、市内の医療的ケア児に対して、より安全・安心な支援を行います。



市内の医療的ケア児の受入施設
(こども発達支援センターにじいろ、障害児タイムケア、
認定こども園、保育所、幼稚園など)



医療的ケア児に対応できる医療機関

◆ 連携による取組内容



①医療的ケア児支援者を
対象にした研修会の開催



②看護師の病院実習
(にじいろ・タイムケア)



③医療的ケア児対応医療機関と
その受入施設による連携会議の開催
(課題の共有と解決に向けた協議)

技術の向上により医療的ケア児を適切にサポート

手話で日常のコミュニケーションをされている方に向けて、市政情報等を手話通訳する動画を撮影・配信し、くらしの情報をよりわかりやすく発信します。

これまで

市政情報の発信は広報誌やチラシなど活字によるものがほとんど

文章だけでは
わかりにくいなあ

手話の方が
わかりやすいなあ



※手話で日常のコミュニケーションをされている方は、活字で情報を認識することが難しい場合があるため、手話で伝達した方がわかりやすい。

これから

これまでの方法に加えて、
**広報誌の内容や市の新規事業などを
手話通訳して動画で配信**



手話がついた動画で情報を把握

窓口での混雑緩和や申請書類の記入に係る手間の削減などの市民サービス向上や、窓口業務効率化を図る次世代型スマート窓口の実現に向けシステム構築の共同研究を行います。

現在の窓口イメージ

【市民】



複数の窓口で、待ち時間が発生。また、何度も記入が必要。

【職員】



関係各課でその都度、手入力が必要

スマート窓口イメージ(例 転入手続き)

【市民】



OCR



システム

- ・転出証明書を持参
- ・OCR読み取りにより住所氏名等は記入不要

※OCR…印刷された文字を機械で読みとりコンピュータが文字データに変換する技術

【市民】

- ・次の課での待ち時間が短くなる。
- ・申請書に記入不要。



他課窓口

【職員】

- ・OCR読み取りにより入力不要
- ・聞き取りしながら異動内容を確認
- ・他課での手続きの申請書と案内票を一括発行



市民課窓口

市民課での聞き取り時に他課への確認事項が発生した場合、メッセージ機能により即時に確認可能。

【職員】

- ・案内票のバーコード利用で、市民課での受付内容を即時に把握し、スムーズな手続きが可能。
- ・システムにより申請書作成

マイナンバーカードの取得と利活用を促進するため、市独自の自治体ポイント制度を構築します。また、マイナンバーカードによる証明書発行の増加に対応するため、自動交付機を増設します。

① 市独自の自治体ポイントの利活用方法を検討(680万円)

- ・健康づくり、防災、環境、ボランティア、子育てなどの分野で活用・検討を進める。
- ・貯まったポイントを魅力的な商品、その他の方法で利用できる仕組みを構築。

貯める

現在行っている健康ポイントを発展させ、市独自の総合的なポイント制度への移行を検討

地域の活動参加で
ポイント獲得



- ・健康ポイント
(老人会でのラジオ体操等)
- ・町会活動、
- ・ボランティア活動等

使う

オンラインを活用

- ・地域の特産品を専用ホームページから買う など



地域で使う(検討案)

- ・バス運賃助成時のICカードへ自治体ポイントの付与
- ・公共施設の利用料として使う
- ・学校やNPOへの寄付 など



② 証明書自動交付機を増設し、申請者の待ち時間を短縮(47万円)

マイナンバーカード交付率(目標値)

実績	目標	
R1.9	R2年度	R3年度
16.7%	30%	60%

証明書の発行種類の増加(2種類→7種類)、手数料を窓口手数料より150円下げることにより交付機利用へ誘導。窓口での待ち時間を短縮。(R3.1~予定)



河川等の水質汚濁を防止し、良好な生活環境を確保するため、合併処理浄化槽の設置に対して補助金を交付します。

補助対象

- ・専用住宅、併用住宅（住宅の用に供する床面積が1/2以上）
- ・浄化槽法に基づく設置届の審査、または建築基準法に基づく確認を受けて設置される浄化槽
- ・販売の目的で合併浄化槽付き住宅を建築される方以外
- ・市税や公共料金の滞納のない方

補助対象区域

- ・公共下水道及び農業集落排水区域以外の区域
- ・公共下水道及び農業集落排水区域内であって7年以上整備予定のない区域

補助金額

設置工事費

補助金交付額
(4割)

設置者の自己負担
(6割)

槽の規模

補助上限額

5人槽

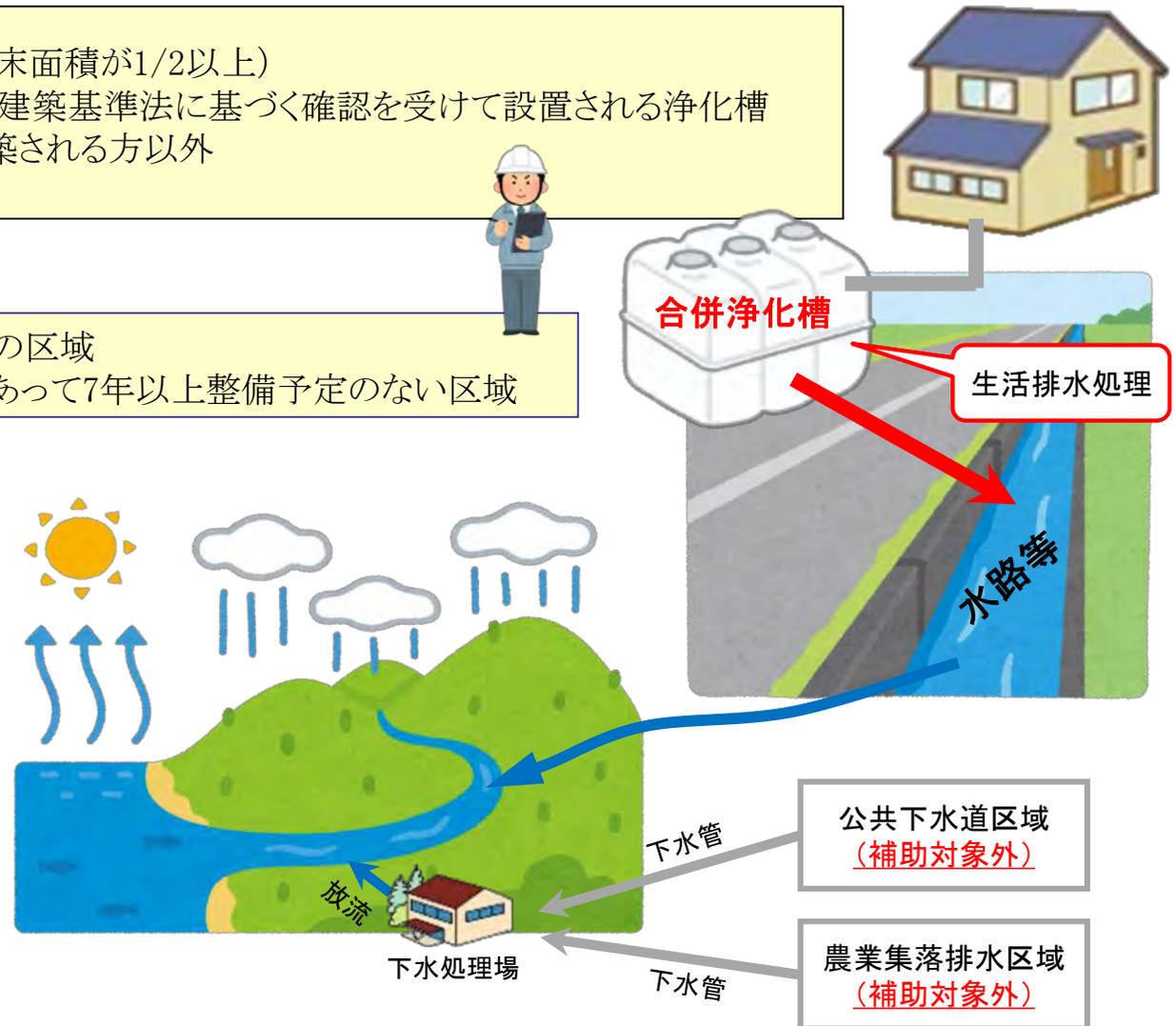
332,000円

6～7人槽

414,000円

8人槽以上

548,000円



公共下水道区域
(補助対象外)

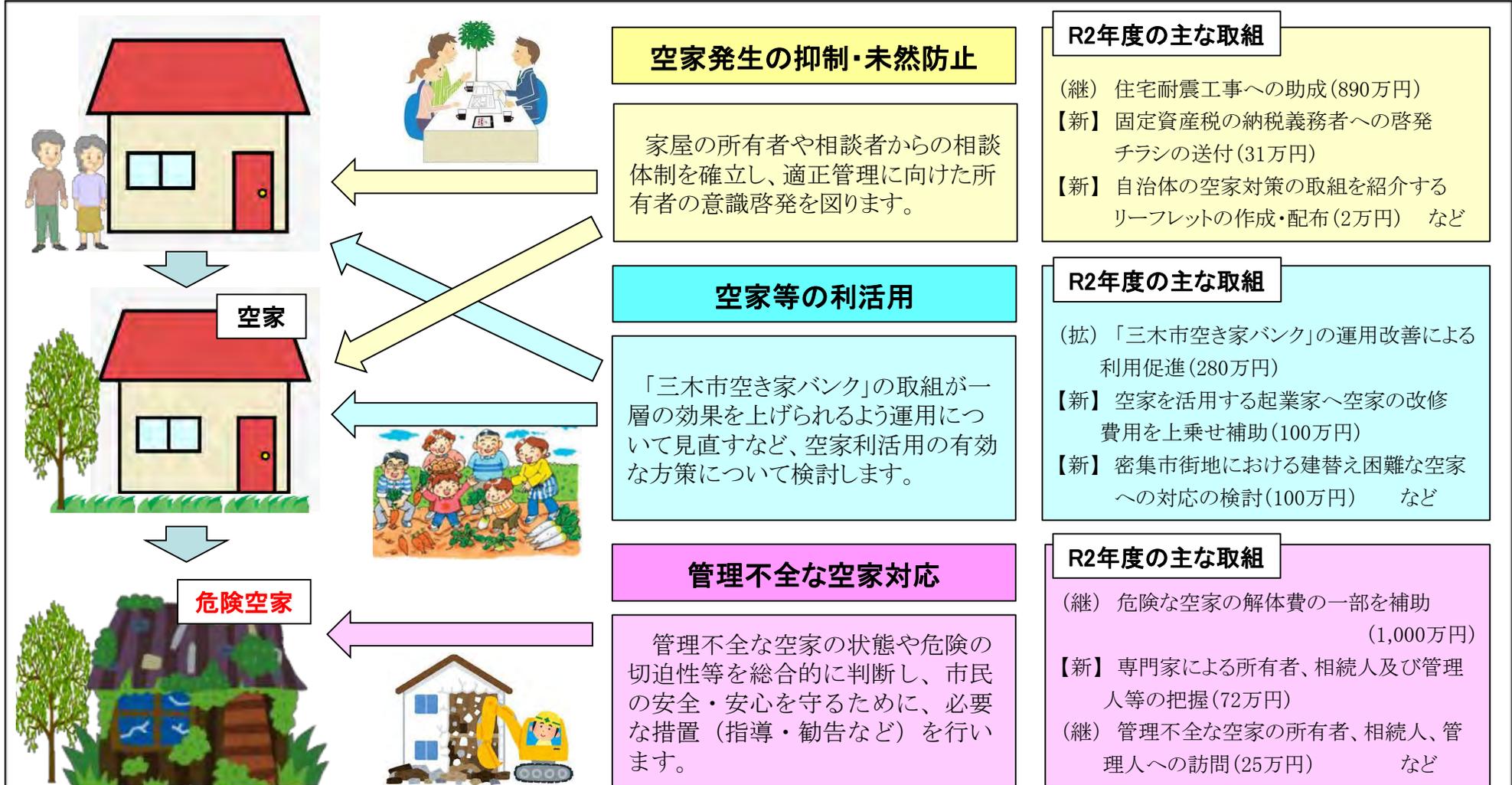
農業集落排水区域
(補助対象外)

項目

空家等の適正な管理に向けた取組の強化
(市民生活部 生活環境課 ほか)

事業費:3,220万円

令和元年度に策定した「空家等対策計画」に基づき、三木市の良好な生活環境を守るため、空家の適切な管理に向けて、市役所、市民、関係団体等が協働して対策を進めます。



※ ()内の金額は事業費

現行の空き家バンク制度を見直し、宅建協会等関係団体が利用しやすい専用ホームページを開設することで、物件の掲載数を増やすとともに、空家を登録する方と探す方のマッチングを円滑・迅速化させます。

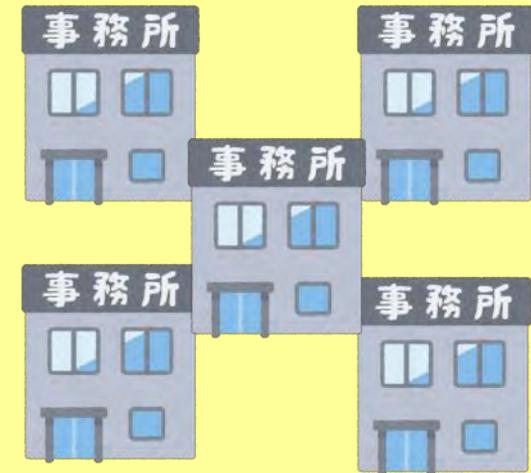


案内

リニューアル

三木市空き家バンク

官民連携により
市内の空家の情報を
一元化して掲載



宅建協会・不動産協会加盟の市内事業者



大和ハウス工業株式会社と包括連携協定を締結し、郊外型団地が抱える高齢化や、空家などの様々な課題を解決する先行モデルとして、先進技術などを活用し将来にわたりまちの活力を保ち続ける仕組みを導入した「多世代の住民が快適に暮らし、永続的に循環しながら団地内に住み続けられるまちづくり」を推進します。

多世代循環型のモデル街区イメージ案

青山7丁目 多世代が暮らすまちのイメージ

- 多世代にとって魅力のあるまちづくりを計画。
- 「所有」から「利用」していく、ライフスタイルに応じた多世代の共生住宅を計画。
- 地域内に住み続けることができる住替え先や住替えサポートの仕組みがある。
- 高齢者が健康で充実した暮らしを送ることをサポートするサービスがある。
- 多世代の交流により地域内外の高齢者や子どものコミュニティが自然とうまれる環境。
- 外にできるきっかけや、仲間と時間を共有でき、働くことで健康になれる仕組みがある。
- 住まいの近くで働くことができる環境を計画。

※この資料は計画イメージです。今後各課との協議、法的、事業的な面の検討を進め、変更改善していくものです。



交流エリア



多世代共生住宅 (平屋タイプ)



多世代共生住宅 (集合タイプ)



胡蝶欄栽培施設

現在、神戸電鉄粟生線の志染駅～三木駅区間の昼間時間帯（10時～14時台）は、おおむね60分間隔の運行です。このうち、11時～14時台の4往復について三木市が運行費用を負担し、社会実験として2年間、おおむね30分間隔の運行に増便します。（令和2年3月14日（土）のダイヤ改正から）

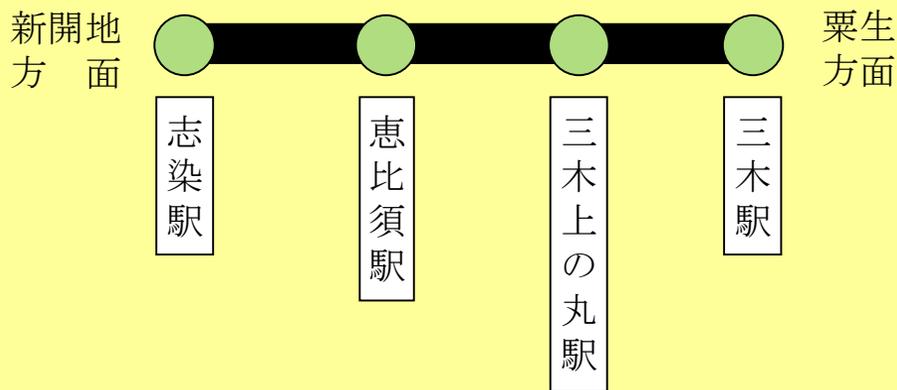
粟生線（志染駅～三木駅区間）の昼間時間帯における増便の概要

令和2年3月14日（土）のダイヤ改正から、新開地駅発志染駅行きの昼間時間帯の一部列車（10時～14時台の5往復）を三木駅（※10時台の1往復は小野駅）まで延長し、おおむね30分間隔の運行に増便します。これにより、現状の不便さを解消し、利便性向上を図るとともに、乗車機会の拡大による粟生線利用を促進します。



【令和2年3月14日（土）のダイヤ改正から】

昼間時間帯（10時～14時台の5往復）
60分間隔 ⇒ **30分間隔**で運行



増便にかかる費用を市が負担。
（11時～14時台の4往復分）

- 令和2年度：3,000万円
- ・ 初期費用（1,000万円）
 - ・ 運行費用（2,000万円）
- 令和3年度：2,000万円

三木駅再生に向けた取組と併せ、にぎわいと活力のあるまちづくりにつなげます

平成30年3月の火災により焼失した三木駅の再生に当たり、地域のにぎわいづくりと粟生線の更なる活性化のため、駅前広場（ロータリー）及び新駅舎の整備を進めます。

◆三木駅再生に向けた整備内容◆

駅前広場（ロータリー）の整備

【令和元年度まで】

- ・ 駅前広場の基本・詳細設計
- ・ 駅の近隣地権者との用地交渉
- ・ 駅前広場等の整備に関する関係機関との協議

【令和2年度】

- ・ 駅近隣地権者との用地交渉を継続 → 完了へ
- ・ 駅前広場（ロータリー）の整備工事を実施

主な事業の内容及び金額

事業の内容	金額
用地購入等	5,440万円
駅前広場等の整備工事	9,000万円
計	1億4,440万円

新駅舎の整備

【令和元年度まで】

- ・ 「三木駅の再生に関するアンケート」調査の結果（イメージ）を踏まえ、基本設計を実施

モダン風 28%
（斬新・現代風）

新駅舎の
主なイメージ

城下町風 27%

旧駅舎・レトロ風 31%

【令和2年度】

- ・ 新駅舎の詳細設計等（550万円）
- ・ 新駅舎の建設工事（R2年度中に補正予算を計上予定）

建設工事には三木駅再生のための寄附金を活用

- 9,493万円（R1.12.31現在）
- （内訳）
- ・ 粟生線サポーターズくらぶ特別会員協力金 788万円
 - ・ 市独自の寄附制度による寄附金 900万円
 - ・ 三木市ふるさと納税（整備充当可能額） 7,805万円

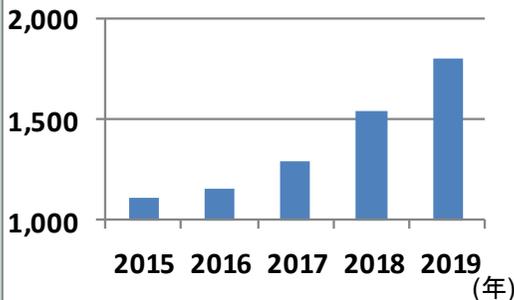
三木市の外国人住民の人口は、5年前と比べると約700人増え、現在1,803人(R1.12月末現在)となっています。外国人住民の増加に伴い、市への相談件数も年々増えており、その相談内容も多岐に渡っています。平成31年4月の入管法※改正により、今後、外国人住民の方がさらに増えることが予測されるため、令和2年度から外国人住民への支援体制を整え、関係機関と協力し、外国人住民と日本人住民の双方が安心して暮らせるまちの実現に向けて取り組みます。

※「出入国管理及び難民認定法」の略称

高まる外国人住民からの相談ニーズ

- ①各種行政手続きに関する相談
- ②就労相談
- ③医療相談
- ④就学相談
- ⑤日常生活相談
- ⑥在留関連相談 など

(人) 三木市内在住外国人の推移



外国人住民への支援強化

1.相談窓口等の体制強化

関係機関への取り次ぎやアドバイス
⇒ AI通訳機の導入



2.多言語支援

市HP・広報誌・行政文書・防災情報などの行政情報の多言語化
⇒ AI翻訳サービスによる文書翻訳の導入

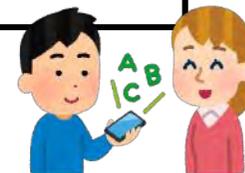
3.市民、団体、事業者等と連携・啓発

多文化共生理解のための啓発
医療機関、事業所、学校等と連携した支援体制づくり

すべての住民が安心して暮らせるまち

連携 ⇕ 協力

三木市国際交流協会



項目

三木山総合公園の野球場に防球ネット等を整備

(都市整備部 都市政策課)

事業費:1億900万円

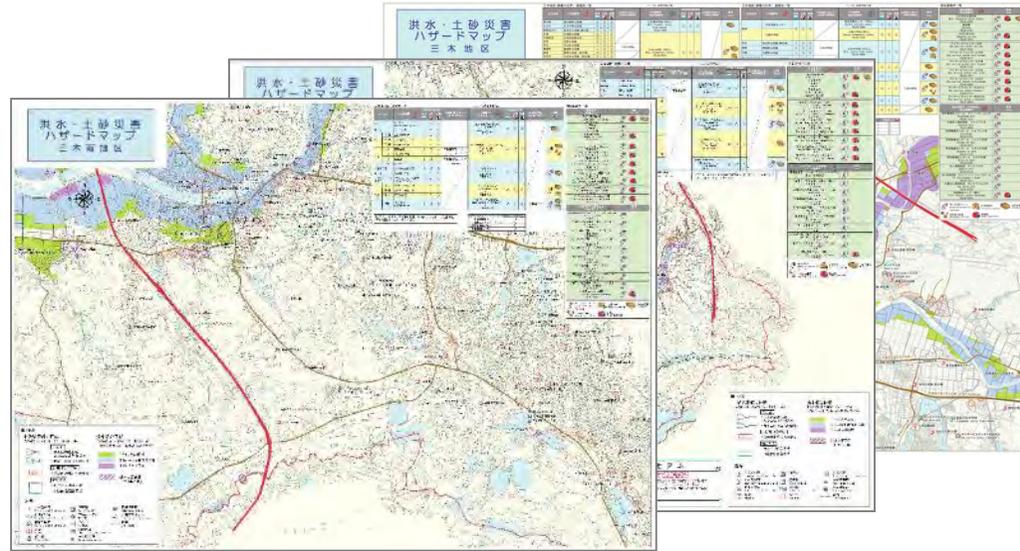
三木山総合公園の野球場に防球ネット等を整備し、野球場の利用者にとっても、その他の公園利用者にとっても、安全に安心して快適に利用できる施設に改修します。



兵庫県が想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域を新たに指定したことを受け、防災情報マップを更新し、市民に周知を図ることで、豪雨時の速やかな避難を促します。

防災情報発信

防災マップを更新し、
全戸へ配布



※上記は平成28年度作成のマップ。

発災時にそなえて避難場所を確認

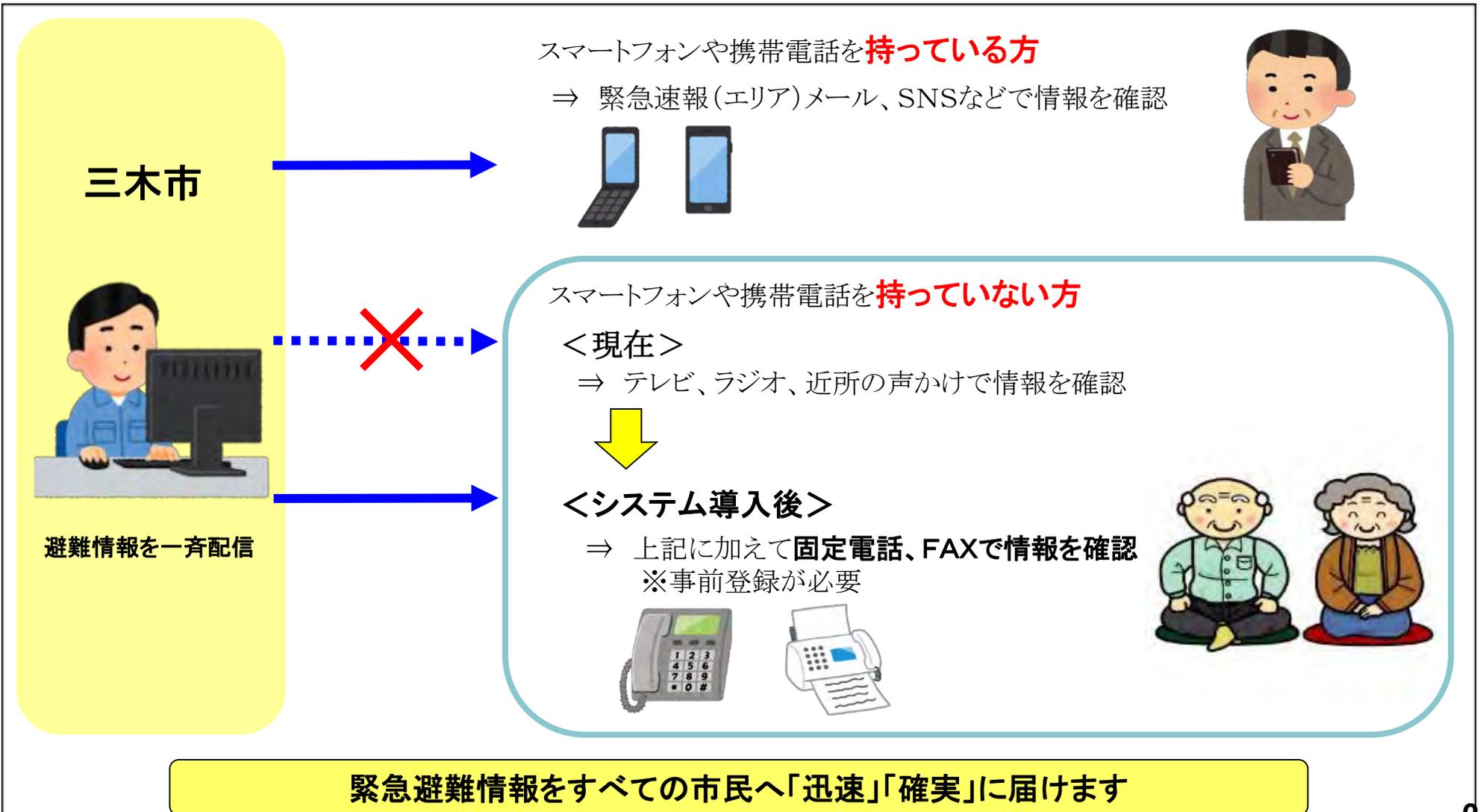


浸水が想定されるときは事前に避難

避難所



スマートフォンや携帯電話を所有していない高齢者や災害時要援護者等に対して、既設の固定電話及びFAXを利用して災害時の緊急避難情報を伝達できるシステムを導入し、すべての市民へ迅速・確実に必要な情報を届けます。



項目

災害時における避難所電源供給用の電気自動車を配備
(総合政策部 危機管理課)

事業費 : 1,610万円

近年豪雨災害や暴風による長時間の停電が発生しており、避難所での電源の供給が課題となっています。三木市では電気自動車(EV)を導入し、普段は公用車として使用し、大規模停電が起きたときは避難所に必要な電源を供給することで、長時間の停電に対応します。

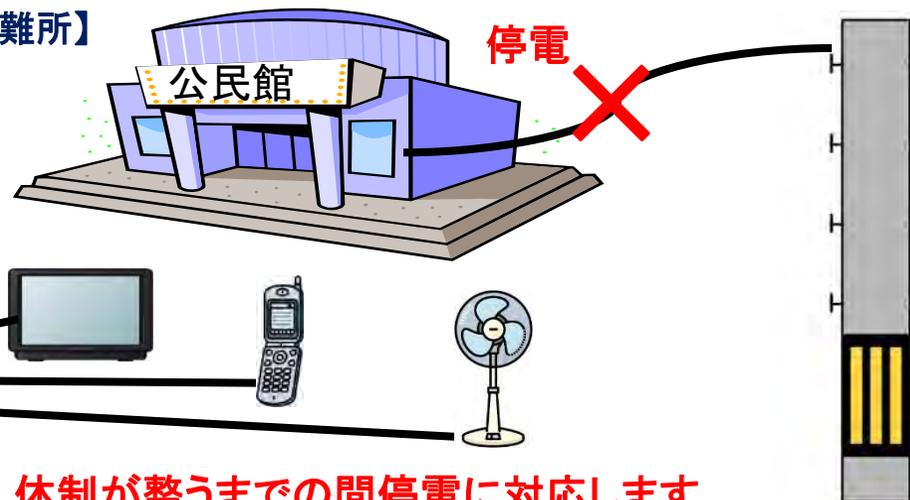
また、電源の供給に十分な台数の電気自動車を確保するため、自動車メーカーや市内企業、市民との連携・協力を進めます。

避難所に必要な電源の確保

EV



パワーインバーター



EVから避難所に必要な電源を供給し、体制が整うまでの間停電に対応します

今後の展開

・所有するEVから電源の提供

自動車
メーカー

三木市

市内企業
市民等

・充電スポットの借用
・所有するEVから電源の提供

緊急時に供給電源が不足しないよう連携・協力を進めます

24時間365日安定した消防指令体制を維持し、より速く、より確実に出動できる体制を整え、市民の安全・安心を守るため高機能消防指令システムを更新整備します。〔令和3年4月 供用開始予定〕

高機能消防指令システム



最新技術の搭載で、より迅速・より確実に

【新】消防車両車載カメラ、大型2面ディスプレイ

現場映像を消防車両の車載カメラでリアルタイムに指令室へ伝送し、大型ディスプレイで現場の状況を迅速に把握

新しいシステムの導入により指令業務を円滑に遂行し、市民の安全安心を守ります

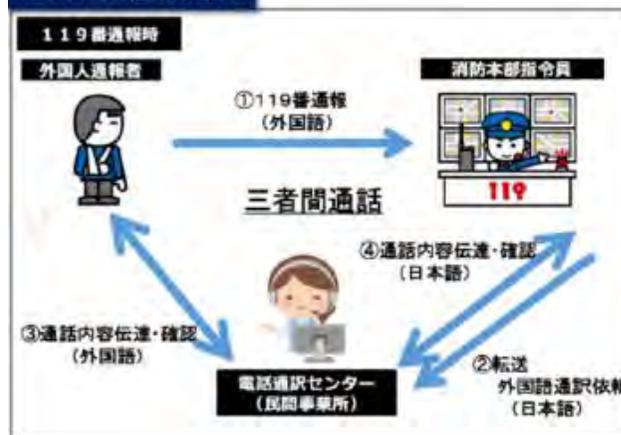
【新】NET119(緊急通報システム)

聴覚・言語障がい者が、スマートフォンなどで119番通報できるシステムを導入(事前登録制)。



【新】三者間同時通訳

三者間同時通訳の流れ



外国人など、日本語での会話が困難な方に対する電話同時通話サービスを用いた多言語通訳システムを導入。

狭い道が多く、古い木造住宅が密集するなど、地震等の災害時に防災面で課題がある地域(防災街区課題地域)において、住民の皆様と一緒に環境改善に向けて取り組みます。

あわせて、歴史・文化・まちなみなどの地域の良いところ(資源)を活かした魅力あるまちをめざします。

課題の掘り起こし・整理

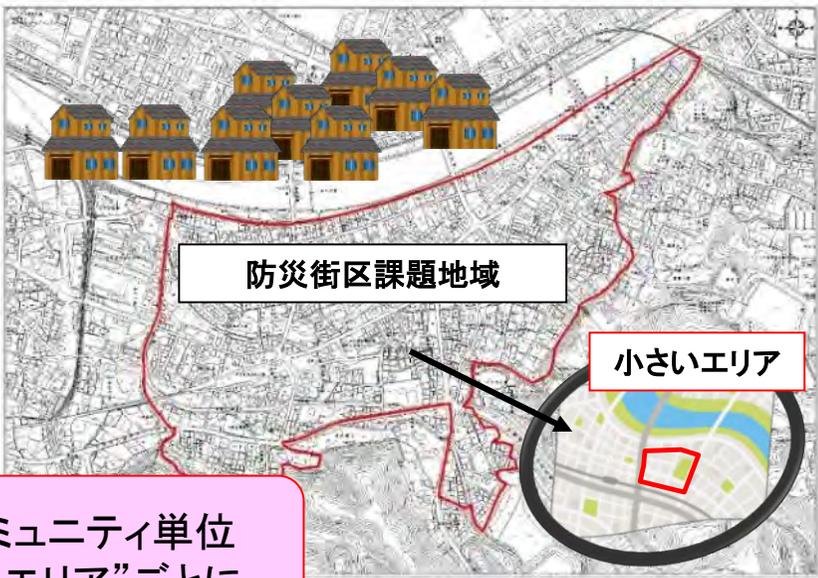
【例】

道が狭いので…

- 消防車や救急車が入れない。
- 家が倒壊すると道が塞がる。

家が密集しているので…

- 延焼で火災がすぐ広がる。

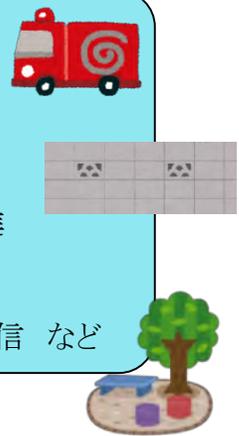


令和2年度

顔が見えるコミュニティ単位などの“小さいエリア”ごとに、防災まちづくりに向けて地域の皆さんと一緒に考え、ローカルルール(計画)づくりを支援します。

取組み(改善策)の検討

- ・避難経路の確保
- ・消防車・救急車の進入路確保
- ・住宅の建替え促進
- ・危険なブロック塀などの撤去
- ・消防団と連携した消防活動の促進
- ・老朽化し危険な空家への対応
- ・空家・空地の活用
- ・まちの魅力の発掘、活用、情報発信 など



ルールに基づいてまちづくりを進める

災害に強く
活力のあるまちへ



項目

全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会を誘致
(産業振興部 観光振興課)

事業費 : 1,650万円

トーナメントコースを多く有している本市で、全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会を毎年開催することにより、春高ゴルフの聖地として『ゴルフのまち三木』を全国にPRします。また、大会練習ラウンドや合宿などで全国のジュニアゴルファーの利用が見込まれることから、市内宿泊施設の利用や消費活動の活性化につなげます。

大会概要

■開催部門 文部科学大臣楯争奪 高校個人の部(男・女)、中学個人の部(男・女)

■出場選手 各地区予選を通過した選手など400名以上

■活躍する主なOB・OGプロ

丸山茂樹、片山晋呉、宮里優作、松山英樹、石川遼
古閑美保、上田桃子、宮里藍、鈴木愛、渋野日向子など



金物と酒米とゴルフのまち三木市

① PR効果

春高ゴルフの聖地として「めざせ三木」を合言葉に『ゴルフのまち三木』を全国に発信

② 集客効果

大会練習ラウンド及び合宿などで全国のジュニア達が市内のゴルフ場に集結

③ 経済効果

出場選手及び関係者、保護者の市内宿泊施設の利用、観光などにより市内での消費活動を活性化

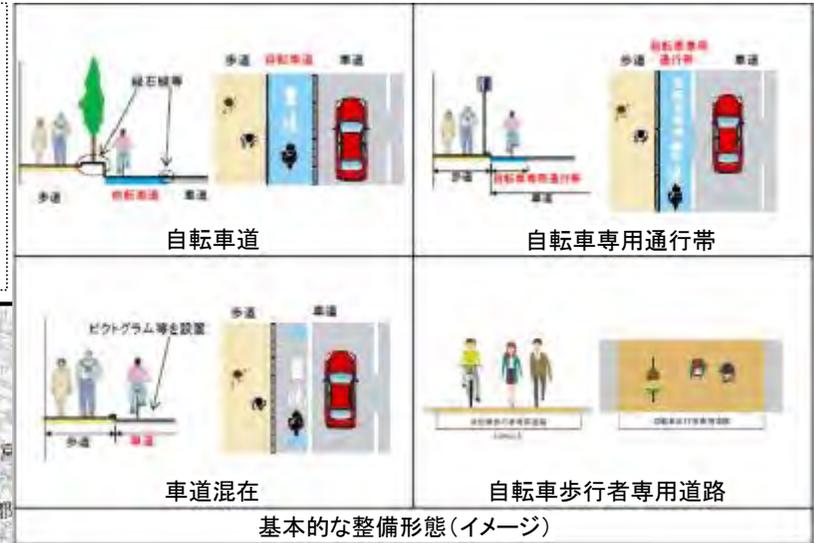
項目

自転車通行空間の整備 (都市整備部 道路河川課)

事業費：1億800万円

令和元年度に策定した「自転車ネットワーク整備計画」に基づき、安全安心・快適な道路空間を創出するため、歩行者・自転車・自動車が適切に分離された道路整備に取り組みます。

また、兵庫県のサイクリングモデルルートに市内の一部路線が位置付けられるなどサイクルツーリズムの機運も高まっていることから、自転車を活用した三木市の活性化に取り組みます。



項目

旧市街地の地域資源を活かしたまちづくりを推進 (都市整備部 都市政策課)

事業費 : 480万円

人口減少、少子高齢化、空き家・空き店舗が増加等している旧市街地で、歴史・文化などの地域資源を活かした魅力あるまちづくりを進めます。

地域資源の掘り起こし、整理(R2年度)

歴史的建造物

まちなみ

行事

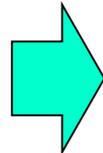
人・名所

歴史・文化

特産品

【例】

三木城址
旧玉置家住宅
旧小河家別邸
湯の山街道
三木鉄道記念公園
三木金物
三木の秋祭り
など



地域資源をつないでストーリー化(魅力発信のための戦略)

発信

資源A

資源B

資源C

発信

つなぐ

資源A

ストーリー化
一体的な取組

資源B

資源C

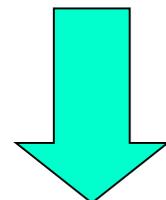
より魅力ある
発信

住民、関係団体、事業者、行政等が
“チーム三木”として、まちの活性化に向けて
一体的に取り組むためのビジョンを策定
(R3年度予定)



戦略的で統一性のある
まちづくりを実行

- ・ 体験型観光の誘致
- ・ 空き家・空き店舗の利活用
など



三木市の知名度・まちの魅力を向上
⇒ 観光客の増加、交流人口の増加
⇒ 賑わい、まちの活性化



三木駅

三木上の丸駅

恵比須駅

旧市街地



項目

市史編さんを推進（総務部 市史編さん室）

事業費：3,982万円

『三木市史』『吉川町誌』の刊行から半世紀が経ち、新たな三木市史の編さん事業に取り組んでいます。
神戸大学との連携による、学術的な水準の高い通史編と、公民館ごとに地域の歴史や、文化、伝統を発掘していく
住民参加型の地域編を順次刊行します。

三木に息づく豊かな歴史や文化、
伝統を後世に伝えるため、
新たな三木市史の編さんを進めます



神戸大学や市民ボランティアとの連携



《通史編》

（資料編を含む）

＜神戸大学との連携＞

刊行予定年度（令和3年度以降）

（本編）自然環境・原始・古代・中世・近世
近代・現代

（資料編）古代・中世、近世、文化遺産
自然環境・考古、近代・現代

《地域編》

（市内10公民館単位）

＜住民参加型＞

刊行（予定）年度

令和元年度

令和2年度

令和3年度以降

口吉川

志染

緑が丘、吉川、三木、青山
細川、別所、三木南、自由が丘

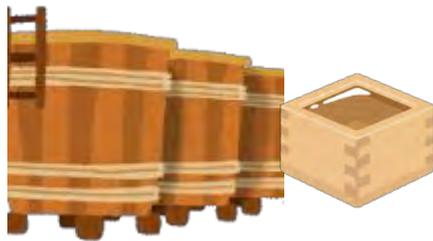
世界のソムリエ、バイヤー、ジャーナリストが集う「SAKE selection 2020」の兵庫県開催にあわせて、日本酒・酒米セミナーなど関連事業を一体的に開催することで、国内外における日本酒の新たな需要を創出するとともに、その原料となる酒米・山田錦の生産振興を図ります。

SAKE selection とは

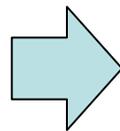
27年目を迎える世界最大級のワインコンクール・ブリュッセル国際大会(略称「CMB」)の日本酒部門の審査会。2018年に新設され、日本国内では三重県に次いで2回目の開催となる。主催はベルギーのブリュッセルに拠点を置く「ビノプレス社」。

主なスケジュール

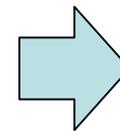
- 歓迎レセプション
- 審査会 審査員約60名
- 産地等での体験会・見学会
…… 酒蔵見学、酒米の刈り取り体験等
- セミナー・交流会
…… 日本酒や酒米に関するセミナー、出品酒の試飲会、各市町のPRブース
- 結果発表・表彰式



日本酒のブランド力を向上



消費の拡大



酒米・山田錦の振興

急増しているイノシシやアライグマなどによる農業被害を防止するため被害防止対策及び捕獲対策を引き続き進めます。

イノシシなどを寄せつけない対策(1,700万円)

・侵入防止柵の設置により被害を防止

継続

【金網柵の設置】(250万円)

(集落単位の設置)

- ・集落で施工 ⇒ 集落負担:0%
(市が材料を購入し、集落へ提供)



H28: 0.96 km H29: 0.75 km
H30: 1.75 km R1 : 1.52 km 合計 5 km



継続

【電気柵等の設置】(1,450万円)

(集落単位の設置)

集落単位でイノシシ等の侵入を防止する柵を設置する場合に、設置費用の1/2を補助

柵が邪魔...



H27: 32 km H28: 59 km
H29: 54 km H30: 48 km
R 1: 83 km 合計 276 km

イノシシなどの数を減らす対策(2,614万円)

- ・檻、罠を購入し、猟友会の捕獲力をアップ
- ・狩猟免許取得費の助成により猟友会会員の増加を図り、捕獲体制を強化

継続

(檻、罠は猟友会三木、美囊支部に支給)

【捕獲用檻購入】(335万円)

イノシシ捕獲用檻 15基
アライグマ捕獲用檻 330基

【捕獲用罠購入】(264万円)

イノシシ用くくり罠 300基

【駆除事業】(1,852万円)

イノシシ・アライグマ捕獲・処分費

【狩猟免許取得費等助成】(118万円)

狩猟免許取得費用、狩猟者登録費用、猟銃所持許可取得費用を助成

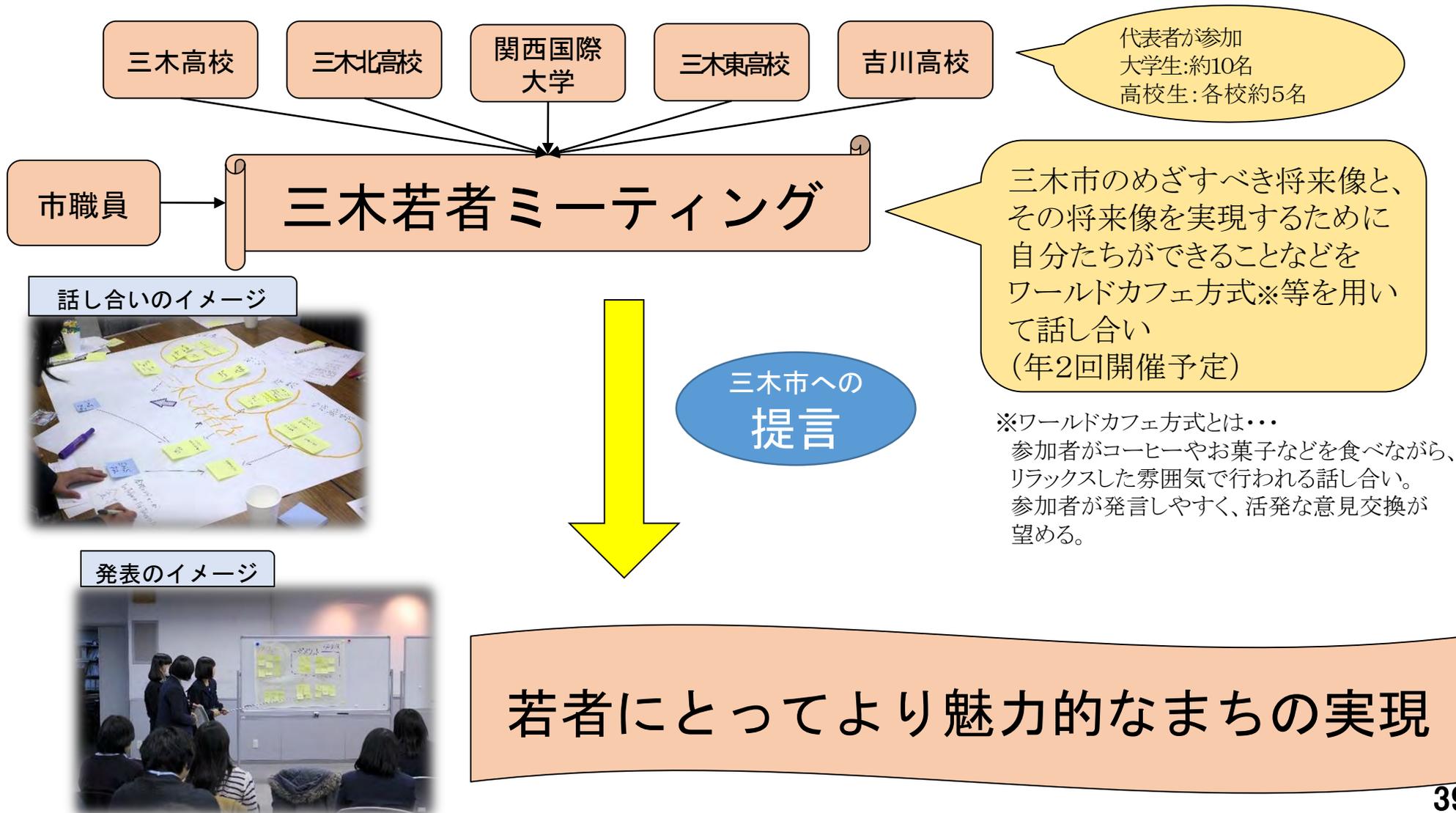


新規

【鳥獣対策サポーター派遣支援事業】(45万円)

農作物対策から生活区域に出没する野生動物対策までを支援

関西国際大学及び市内4高等学校の学生に、市のめざすべき将来像と、その実現のため自分たちにできることなどを話し合ってもらうことで、地元への愛着心を育みます。



AIやRPAなどの技術を活用し、職員の負担となっている大量の定型業務を効率化し、業務の改善を図ります。もって職員は政策的な判断を要するクリエイティブな仕事、より質の高い住民サービスを提供することへ業務シフトします。

現在の状況
(イメージ)



RPAの導入

RPAによる自動化



業務の効率化



- ・住民サービスにつながる政策的な判断を要する業務に集中
- ・人材不足の解消
- ・住民サービスの向上
- ・ミスの削減

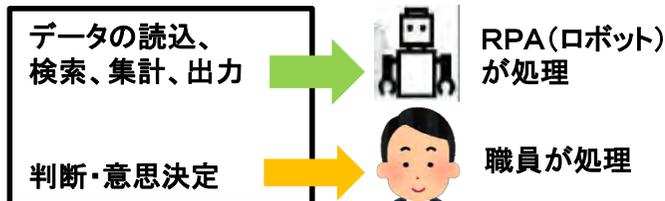
【業務改善の必要性】

- ・行政ニーズの多様化
- ・市民サービスの維持・向上
- ・働き方改革
- ・生産年齢人口の減少等

※AI(Artificial Intelligence)
・・・ 人工知能

①RPA(Robotic Process Automation)の導入(540万円)

プロセスやルールが定まっているパソコンの定型作業を自動化。



【導入を検討中の業務】

- I 総務課(給与事務)
- II 税務課(市民税当初賦課業務)

②議事録作成システムの導入(157万円)

システムの導入により、議事録作成に係る時間を約1/3に削減。



議事録を短時間で作成することで情報公開のスピード化を図ります